

事業概要票

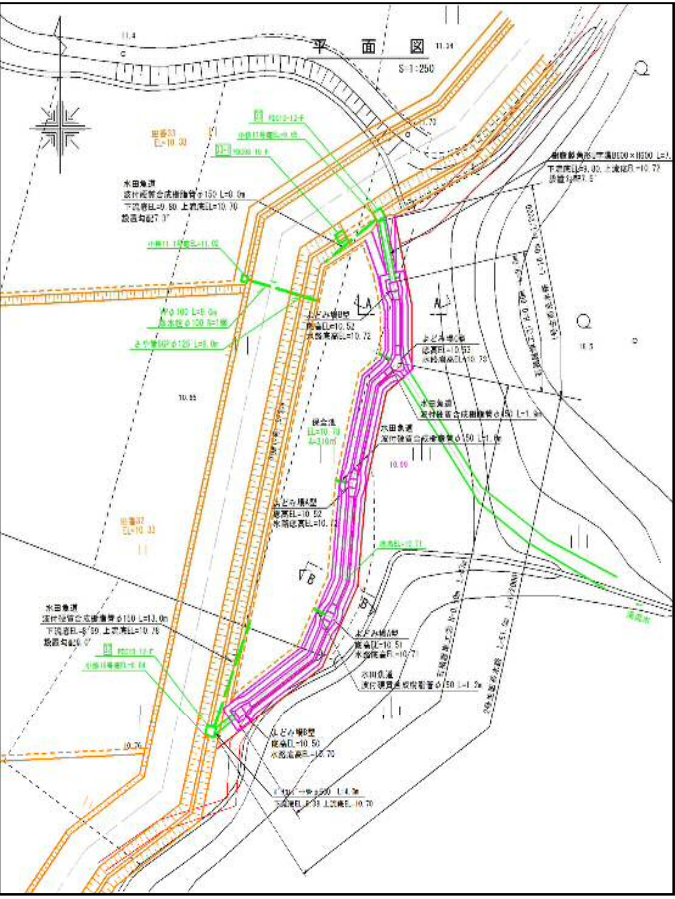
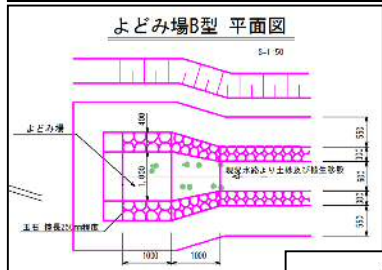
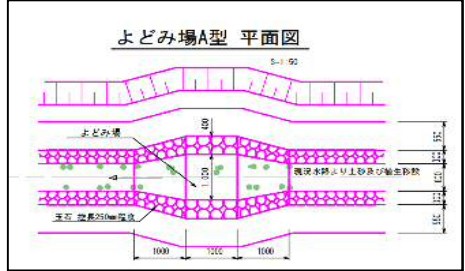
事例NO. 75

事例キーワード

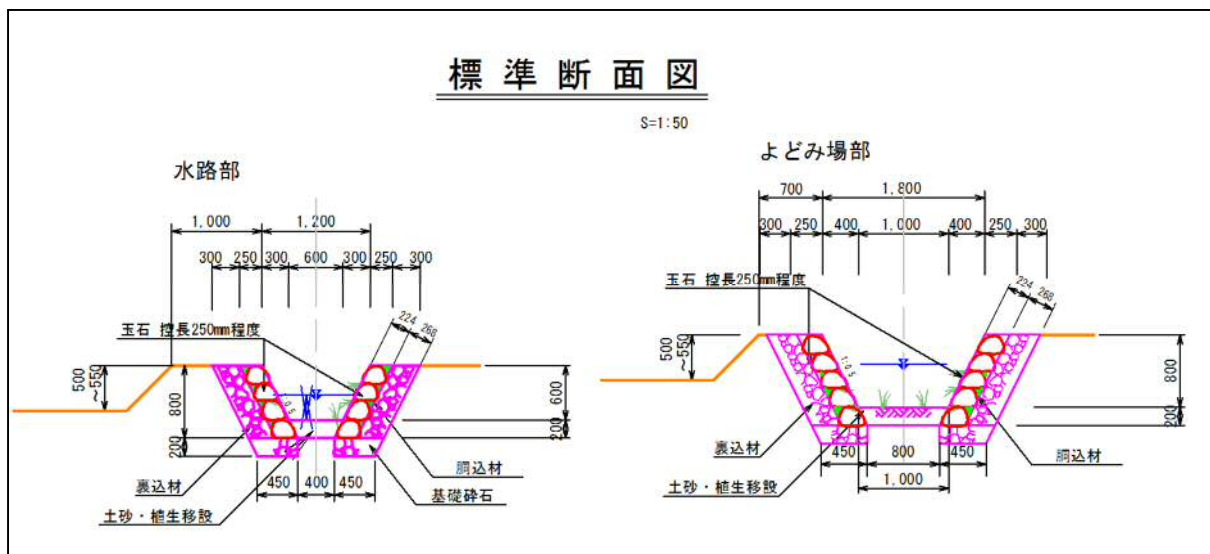
魚類の保護と生態系水路

事業名		農地集積加速化基盤整備事業 柴野地区	魚類の保護と生態系水路
事業担当機関		由利地域振興局農林部農村整備課	
工事期間		平成27年5月25日 ～ 平成28年6月30日	
実施場所		由利本荘市福山	
事業概要	工事費	103百万円	
	工事概要	整地工 A=6.5ha、用水路工 L=1,870m、排水路工 L=1,699m、道路工 L=1,593m	
	事業の目的	本地区のほ場は10a区画または未整理であり、農道も幅2m程度と狭く、用排水路も土水路かつ用排兼用であり、大型機械の導入や水稻以外の作付けが不可能な状況である。 本事業により、区画拡大や用排水路の分離、水路装工と農道等を一体的に整備し、農業生産法人等への農地集積と、大豆・枝豆・キャベツ・ネギなどの複合経営、大型機械の導入による生産コストの低減を図る。	
環境配慮の内容	1. 地区内の調査 事業着手前（H24）と工事着手前（H26）に地区内の用排水路において捕獲調査を行った。その結果、準絶滅危惧種（NT）であるヤリタナゴと絶滅危惧種（ⅠA類CR）であるホトケドジョウが確認された。		
	2. 保全方法及び対策 地区内の渓流水流入場所に、石積みによる生態系保全水路と保全池を設置することとした。また、工事着手前に、工事受注者と地元工事委員らと地区内の魚類採捕を行い、近隣住民の協力を得ながら、宅地内に設置した水槽へ採捕した魚類等を一時避難させた。なお、水槽へは湧水を導水した。		
施工後の状況	3. 生態系保全水路の施工完了後 施工後は、水路底に地区内から採取した泥土や植物を搬入している。また、渓流水が枯れた場合でも、用水路から水を供給できるよう取水管を設置した。 なお、宅地内の水槽からの放流においては、リスク分散のため、採捕した魚類等を2回に分けて行った。		
	・隠れ家用の穴あきパイプを水路底に数箇所設置しており、現地を目視する限り、生息は確認されている。 ・今後、放流後の状況を確認するための生態系調査を実施する予定である。		

図面、写真、説明



図面、写真、説明



地区内魚類採捕状況



採捕魚類一時避難



生態系保全水路と保全池



採捕魚類の放流

